

T e l : 3 5 9 5 - 1 1 4 7
F a x : 3 5 9 5 - 1 1 4 8

港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門琴平タワー5階 (〒105-0001)

物部法律事務所

FAX

送付先： 全国連絡会議 御中

発信： 物部 康雄

FAX 番： 0 2 4 1 - 6 2 - 2 6 8 8

送付枚数： 2

電話番号：

日付： 2/7/2022

要件： 佐井村のヒバ

配布先：

前略

突然のファックスで失礼します。

私は、下北半島のヒバを研究しているのですが、昨日、ネットで別紙の記事を見ました。

恐山近くのヒバの伐採状況を憂いておられる記事ですが、そこで気になったのが、そうした問題で管理局と話された際に、「佐井村の石山沢沿いに、元南部藩が管理していたヒバの美林が今も手付かずに残されている」という話は出なかったのか、という点です。

専門家ではないので間違っているかもしれませんが、すでに下北の天然のヒバが全滅状態にある、と思いますが、奇跡的にこの佐井村のヒバ林（約56万坪）はほぼ昔の儘に残されているとのことでした。

貴団体の方々が下北に行かれ、また、管理局とお話をされたのであれば、佐井村に奇跡的に残されているヒバ林の話が出たのではないかと思います、もし出たのであればそれはどのような話だったのか、お伺いできれば幸いです。

勝手な問い合わせで誠に恐縮ですが、よろしくお願いします。

(以上)

「貴重な天然林の伐採を止めよう」。学者や自然保護運動家らが5日、「日本の天然林を救う全国連絡会議」を立ち上げ、運動を始める。天然林の管理は林野庁ではなく、環境省に任せるべきだとも主張している。

「台風で倒れた木を片づけた」という場所はヒバの森がまるごと消えていた＝11月12日、青森県下北半島の恐山近くで 同会議の代表世話人は、国際自然保護連合委員の河野昭一・京都大名誉教授(植物生態学)で、ほかに哲学者の梅原猛氏や作家のC・W・ニコル氏ら約40人で発足する。

日本の天然林は、固有の樹種が多く、貴重な動植物が生息する。水源を育み、土砂崩れや洪水を防ぐ機能もある。河野氏らは国有林の天然林乱伐の実態を調査するため、11月に青森県下北半島を訪れた。恐山に近い山の奥に入ると、ヒバの森は尾根筋から一面丸裸になっていた。低木も切られ、直径約60センチの丸太が千本以上山積みされていた。河野氏は「これでは冷風にさらされ、この一帯で新しい木はもう生えない」と話した。この地域は、「森林生態系保護地域」に指定され、木材生産のための伐採はできない。東北森林管理局青森事務所は「台風で倒れた木を片づけた。立ち木は切っていない」と説明する。だが、根を張った太い切り株や大人の背丈ほどの幹もある。「積雪の中に立つ木を切った跡では」と佐藤謙・北海学園大教授(植生生態学)はいう。河野氏らはエゾマツやブナ、ヒバ、スギ、ヒノキなど国有林の天然林乱伐の実態を3月、林野庁に報告した。このうち北海道上ノ国町のブナ林は「決められた地域を越えて伐採した」と同庁も認めた。秋田では天然秋田 スギの違法伐採を市民が告発し、東北森林管理局が委託していた業者が8月に書類送検された。国有林の盗伐や誤伐は報告されているだけでも毎年10～20件前後ある。同庁業務課は「広大な森林すべては把握しきれない」という。河野氏らの計算では、50年当時、天然林は全国で953万ヘクタール。今は森林全体約2500万ヘクタールのうち300万ヘクタール程度とみられる。河野氏は「数百年、数千年かけてはぐくまれた国民の財産が奪われるのは許せない」と語る。

[先頭](#) [前ページ](#) [次ページ](#) [最後](#)

木の情報発信基地では、TOP ページを平日毎日更新しておりますが、その更新の中に、報道各社のホームページに掲載されているニュースを毎朝調べ、昨日掲載された情報を集め、リンク形式の1行にその見出しを掲載しています。2010年現在で毎日平均15本の広い意味での木に関する情報が掲載されています。毎日更新ですから、次の日には消えてしまいます。これではいかにももったいないので、アーカイブとして分野別に分けて保存しております。このwebページは「木材、木工、木製品」に関するものを集めています。2006年から開始しましたが、年に2度程度の更新で情報追加いたします。情報収集の方法はグーグルニュースの検索で調べるというシンプルなものですよ。